

令和7年度入試（令和6年度実施）の情報開示
解答例又は出題意図について

入試の区分	一般選抜 前期日程
学部学科等	人文学部・教育学部
教科・科目名	国語／ 現代の国語、言語文化
正解・解答例 又は出題 (面接)意図	(解答例又は出題意図) 別紙のとおり
備 考	

令和7年度 一般選抜（前期日程）人文学部・教育学部

国語／現代の国語、言語文化

1

問1 （ア）輪郭 （イ）そんなふう

問2 本を開いて読んで考えれば、たとえ千年の時を隔てていても、互いに同じ思いのよう
だということ。

問3 （本を読む以外の）目的があってする読書。

問4 本に触発され、読書前後でまったく自分が変わってしまったかのように思える読み
方。

（別解） 読書に触発され、自分の中に新たなものが生まれる読み方。（本そのものは変化
しない）

問5 隔たり

問6 中国古典文学は強固な伝統があって読み方が固定され、創造的で自由な読み方ができ
る作品が数少ないため。

問7 作者の思考をたどるだけの読書、作者の考えに共感する読書、そして、本に触発され
前後で自分が変わってしまうように思えるような読書などはいずれも本から一方的に影響
を受ける受動的な読書に過ぎない。本に影響を及ぼし作者が意図していなかった意味を与
えるような能動的で創造的な読み方こそが筆者の理想とする読書である。

2

問1 『遠野物語』は周到な文体研究に基づく特異な文語体で書かれており、口語体では間延びしてその魅力が損なわれてしまうと考えられるから。

問2 ア

問3 柳田国男が独自の文語体で書き記した物語を、遠野の人々が親しみを持てるような、方言による語りの世界のままに伝え直したいということ。

問4 ウ

問5 ウ

問6 (1) 資料Aは資料Bに比べ、方言での会話が具体的に書かれている。(29字)

(2) 資料Aは資料Bの内容を想像と創造でふくらませるのではなく、元々交わされていたであろう遠野方言による会話を復元しながら、文意を変えずにわかりやすい文章にしているから。

問7 (ア) 知遇 (イ) 挑 (ウ) 喝破

問1 ここまで乗ってきた牛車が都の方へと引かれて戻っていく様子を、作者が見ているさま。

問2 重清が、体調を崩して家にこもっていたにもかかわらず、作者を見送りに来てくれて、そのおかげで鎌倉への下向前に会うことができたから。

問3 旅の道中は、行き来する旅人、あちらこちらの山川・草木などに目移りがしてさえ、やはり別れてきた所は忘れられないものであるのに、まして気持ちを落ち着かせる旅寝の寂しさにつくづく思うと、内裏、皇太子の御殿、そのうえ粗末な自分の家までも、すべて恋しく、またもの悲しく思われる。

問4 都が恋しく思われ、せめて夢の中でだけでも都の人に会いたいと願うものの、眠ることができないためにそれすらもかなわず、悲しく、残念に思っている。